

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告

## 第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか</b>						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神, 教育理念, 使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	図書館運営について自己点検・評価を行い、評価結果をふまえて改善すべき点を明らかにし、評価される点をさらに発展・充実させるよう年度計画に反映させる。 ①評価に関する委員会等の設置(名称, メンバー, 年間開催回数) 図書委員会の下に「図書館自己点検・評価委員会」を設置している。 副館長1名を委員長とし、図書委員2名、図書館事務長3名を委員とする。事務局は、図書館総務事務室にて行っている。 2014年度は、メールによるオンラインミーティングにて点検・評価を行っている。点検・評価については図書委員会にて報告を行っている。 ②評価報告書等の作成、公表 2014年度明治大学自己点検・評価報告書に掲載し公表する予定である。					
b ●当該付属機関・委員会の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】	「明治大学図書館規程」により設置される図書館は、教育・研究に必要な学術資料を収集・整理・保存し、大学の「『知』の拠点」として、これを本学の教職員、学生に提供することを目的とする【1-33-1】。この目的を十全に果たすため、各々の学問分野にわたり必要とされる学術資料を過不足なく収集し、それらについて十分な検索手段を確保し、さらに学術情報をよりスムーズに提供するための人的資源の確保、養成に努める。またこのような図書館機能の有効な活用を促すために、学生に対して図書館リテラシー教育活動を積極的に実施する【1-33-2:300~305頁】。 「明治大学マンガ図書館規程」により設置されるマンガ図書館は、米沢嘉博記念図書館、現代マンガ図書館の2館で構成される。マンガ図書館は、世界的に注目されるマンガやアニメの分野を中心に、日本の先端文化に関する資料を収集、保存、公開する。また一般に図書館を公開することにより、地域・社会への貢献を果たす【1-33-3】。また、長期・中計画を策定し、公表している【1-33-2:336~339頁】。					1-33-1 明治大学図書館規程 1-33-2 2014年度教育・研究に関する年度計画書 1-33-3 明治大学マンガ図書館規程
<b>(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか</b>						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	教員に対しては、図書委員会を通じて図書館の諸活動を周知している【1-33-4】。また学生に対しては、学部間共通総合講座「図書館活用法」、図書館ガイダンスをはじめ各種講習会等の図書館リテラシー教育活動を通じて図書館の諸活動や活用方法を周知している。さらに、学内外、社会に対しては、「図書館年次報告書」を毎年刊行するとともに、図書館ホームページに掲載して図書館活動の内容を公表している【1-33-5, 1-33-6】。 マンガ図書館については、マンガ図書館運営委員会を開催し、審議・報告等を行っている【1-33-7】。また、米沢嘉博記念図書館及び現代マンガ図書館は、ホームページを通じてマンガ図書館の諸活動を周知している【1-33-8】。	図書館の諸活動については、毎年「図書館年次報告書」を刊行し、また図書館ホームページ上に公開することで、学内外を問わず広く周知している【1-33-5, 1-33-6】。		図書館の広報活動については、図書館広報部会を開催し、検討する。 今後とも図書館の諸活動については、図書館ホームページなどを通じて、速やかに公表するとともに適宜情報を更新していく。		1-33-4 図書委員の役割について 1-33-5 2014年度図書館年次報告書(2015年6月末刊行予定) 1-33-6 明治大学図書館ホームページ「図書館年次報告書」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/about/publication/annual/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/about/publication/annual/index.html</a> 1-33-7 明治大学マンガ図書館運営委員会議事録 2014年度第1~3回 1-33-8 米沢嘉博記念図書館ホームページ「展示・イベント」 <a href="http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/archives/index.html">http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/archives/index.html</a>

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告

## 第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<b>(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	前年度の図書館の活動報告として「図書館年次報告書」を毎年刊行、公表し、図書館活動の検証を行っている【1-33-5】。また、図書委員会の下に図書館自己点検・評価委員会を置き、報告書をまとめている。図書館に関する課題については適宜図書委員会で審議し、図書委員会での審議・報告事項は、図書委員を通じて、各学部教授会に伝達する体制となっている【1-33-4】。 マンガ図書館については、前年度活動報告書を作成し、1年間の活動を総括している【1-33-9】。	図書館の諸活動については、毎年「図書館年次報告書」を刊行し、また図書館ホームページ上に公開することで、学内外を問わず広く周知している【1-33-5, 1-33-6】。		今後とも図書館の諸活動については、図書館ホームページなどを通じて、速やかに公表するとともに適宜情報を更新していく。		1-33-4 図書委員の役割について 1-33-5 2014年度図書館年次報告書(2015年6月末刊行予定) 1-33-9 米沢嘉博記念図書館活動報告書2014年度
<b>(I-2) 理念・目的に基づいた特色ある取り組み</b>						
	③個性化への対応 図書館が行ってきた図書館リテラシー教育活動について、2007年度には、文部科学省の特色GPに「『教育の場』としての図書館の積極的活用」が採択され【1-33-10, 1-33-11】、3年間の活動を経て、事業は2009年度に終了した。以降はこれを継承し、政策経費「図書館リテラシー教育活動」を毎年申請し、学習・教育支援のために図書館職員の資質向上を目指す様々な取り組みを行う事業を展開している【1-33-12】。具体的には、学部間共通総合講座「図書館活用法」に図書館職員を講師として派遣するとともに、図書館ガイダンスや各種情報ツールの利用講習会の実施などにより、図書館リテラシー教育の充実を図った【1-33-5】。 2013年度から、各学部の教員による初年次教育科目と図書館によるプログラムについて、情報や意見交換を行い、初年次教育の一層の充実を目指すため、教員・職員合同の初年次リテラシー教育研修会を図書館、教育開発・支援センターとの共催で開催している。2014年度は、春学期(8月1日)、秋学期(1月30日)の2回開催した【1-33-13, 1-33-14】。	図書館活用法タスクフォースを中心に学部間総合講座「図書館活用法」の授業評価を継続して実施している。授業評価により、授業改善が行われている。		今後とも「図書館活用法」の授業評価を継続するとともに、中断した講師を担当する職員のSD研修を継続して実施する。		1-33-5 2014年度図書館年次報告書(2015年6月末刊行予定) 1-33-10 図書館ホームページ「特色GP」 「『教育』の場としての図書館の積極的活用—図書館の持つ教育力を教育に活かす—」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/about/gp/Meiji_GP_Panph2007.pdf">http://www.lib.meiji.ac.jp/about/gp/Meiji_GP_Panph2007.pdf</a> 1-33-11 図書館ホームページ「図書館活用法」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp">http://www.lib.meiji.ac.jp</a> 1-33-12 2014年度明治大学図書館合同職場研修会 1-33-13 2014年度春学期初年次リテラシー教育研修会 1-33-14 2014年度秋学期初年次リテラシー教育研修会

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第2章 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか</b>						
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。  ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	○図書館【参照：基準7】 明治大学図書館（中央，和泉，生田，中野図書館）は、教育・研究支援の中核機関であり、教育、研究及び学習に必要な学術資料を収集・整理・保存及び提供することにより、本大学における教育研究の進展に資するとともに、広く学術の発展に寄与することを目的としている。特に、2012年度に建て替えによって開館した和泉図書館においては、近年必要性が高まっているラーニング・コモンズの機能の提供をめざし、学生の自主的な学習活動を促すコミュニケーションの場を実現した。中央図書館は2001年3月に開館して以来、延べ入館者数が2014年10月には、1,200万人を迎えた。和泉図書館においては、2012年5月に開館し1年と1カ月で延べ入館者数100万人を超え、2014年6月には、延べ入館者数200万人を迎えた。さらに和泉図書館の学外からの見学者は、2014年度は、95件、590名（開館以来累計286件、1,937名）であり、その他自由見学者は3,200名以上にも上る。和泉図書館は、全国から注目を集めている【2-33-1】。  ○その他の附置機関等 (8) 明治大学マンガ図書館 日本のマンガ、アニメ等の資料を収集し、これを公開することを目的として設置し、「米沢嘉博記念図書館」及び「現代マンガ図書館」の2館から構成されている。					2-33-1 2014年度図書館年次報告書（2015年6月末刊行予定）
<b>(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか</b>						
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。  ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	前年度の図書館の活動報告として「図書館年次報告書」を毎年刊行、公表し、図書館活動の検証を行っている【2-33-1】。また、図書委員会の下に図書館自己点検・評価委員会を置き、報告書をまとめている【2-33-2】。課題となる要項については適宜図書委員会で審議している【2-33-3】。 マンガ図書館は、「明治大学東京国際マンガミュージアム」（仮称）の設置に向けて検討を行った。これまで、2010年3月に「東京国際マンガ図書館（仮称）設置大綱」を、2012年1月に基本構想として「明治大学国際マンガ図書館（仮称）設置準備委員会報告書」としてまとめ、これを理事長へ提出した【2-33-4、2-33-5】。これについて設置場所を中野キャンパスとした検討案を2012年2月に「明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書」としてまとめ、2013年4月に学長へ提出した【2-33-6】。扱う資料の性格上、これまでの「図書館」とは性質を異にすることから、2013年10月の理事会にて「明治大学東京国際マンガミュージアム」（仮称）と名称変更することになった【2-33-7】。 マンガ図書館に関連する事項は、明治大学マンガ図書館規程に則り、マンガ図書館運営委員会を開催し、審議を行っている【2-33-8、2-33-9】。					2-33-1 2014年度図書館年次報告書（2015年6月末刊行予定） 2-33-2 2014年度図書館各種委員会委員構成 2-33-3 図書委員会議事録 2014年度第1～4回 2-33-4 「東京国際マンガ図書館」（仮称）設置大綱（2010年3月11日） 2-33-5 明治大学国際マンガ図書館（仮称）設置準備委員会報告書（2012年1月30日） 2-33-6 明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書（2013年2月28日） 2-33-7 起案書「明治大学国際マンガ図書館（仮称）の名称変更について」（2013年10月15日常勤理事会可決） 2-33-8 明治大学マンガ図書館規程 2-33-9 明治大学マンガ図書館運営委員会議事録 2014年度第1～3回

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p><b>(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき各課程に相応しい教育を提供しているか</b></p>						
<p>a 教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容（何を教えているのか）</p> <p>◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】</p>	<p>各キャンパスの図書館において、図書館リテラシー教育の一環として「図書館ガイダンス」を実施している。これは授業の1回を使い、図書館の利用方法、文献の探し方、資料の入手方法を実習形式で修得するものである。また「レポートの書き方講座」や「各種データベースの利用講座」なども図書館を主体に随時開催している【4(2)-33-1】。大学教育全てに共通する資料の探し方、資料の入手方法等を図書館が教えることにより、学習支援の一端を図書館が担っていると言える。</p> <p>図書館ガイダンスの実施は、教員からの要望が強い。2014年度は、中央図書館は56回、和泉図書館は170回、生田図書館は21回、中野図書館は21回実施した。「図書館活用法」は、2013年度に新設された中野キャンパスでも開講し、全キャンパスで開講している。そのため、全キャンパスの学生に図書館活用法を履修可能とし、初年次教育を支援している【4(2)-33-2】。</p>					<p>4(2)-33-1 2014年度図書館年次報告書 (2015年6月末刊行予定)</p> <p>4(2)-33-2 「学部間共通総合講座シラバス」2014年度「図書館活用法」各キャンパス</p>

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第4章 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。							
<b>(1) 教育方法及び学習方法は適切か</b>							
<b>学生の主体的参加を促す授業方法 (学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等)</b>							
e ●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】	<p>&lt;ラーニング・コモンズの機能を発揮する図書館の学習支援&gt; 文系1・2年次が学ぶ和泉キャンパスに2012年5月に開館した和泉図書館では、図書館ガイダンス等を行う情報リテラシー室(3室)、グループワークが可能なコミュニケーションラウンジ、共同閲覧室、グループ閲覧室(6室)の他、館内で自由に利用できる貸出パソコンやグループ閲覧室には電子黒板等の設備を有し、図書館職員や大学院生による、学生の主体的な学びを支援する体制を整えたラーニング・コモンズ機能を有している【4(3)-33-1】。また、和泉図書館では、個人席の利用も多いが、コミュニケーションラウンジ、共同閲覧室などグループで学習できるスペースの利用も多く、特にグループ閲覧室(6室)は予約システムを使っての予約利用制であるが、通常期はなかなか予約が取れない状況である。また、和泉図書館の情報リテラシー室(3室)は、図書館ガイダンス等が行われていないときは自由に利用できるため、普段からグループ学習で利用されている。</p> <p>授業の一環として実施される図書館ガイダンス、学部間共通総合講座の「図書館活用法」等の授業科目と連動した各種ガイダンスの実施などの取組みに加え、大学院生によるレポートの書き方講座等の学習支援を行っている。さらにブックハンティング、ビブリオバトル等の諸行事による学習支援を多様に展開している【4(3)-33-2】。</p>		ラーニング・コモンズ機能については、各キャンパスの図書館建設時期が異なるため、各図書館様ではない。どの図書館にどのような機能が必要かなど、ラーニング・コモンズ機能のあり方については、図書館内で協議する必要がある。		ラーニング・コモンズ機能については、各図書館様ではない。どの図書館にどのような機能が必要かなど、ラーニング・コモンズ機能のあり方については、専門に検討するWGなどを立ち上げ、検討しまとめる。	検討した結果を基に計画を立て、改修工事、機器備品購入等を実施する。また、中野キャンパス二期工事、生田新図書館建設計画の際に、ラーニングコモンズ機能について図書館の意見をまとめ反映させる。	4(3)-33-1 明治大学和泉図書館パンフレット 4(3)-33-2 2014年度図書館年次報告書(2015年6月末刊行予定)

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第4章 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況の評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか</b>							
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】	<p>&lt;初年次教育における学習成果指標の開発と検証&gt; 学部間共通総合講座「図書館活用法」では、授業の学習達成目標を予め設定し、「図書館活用法タスクフォース」が毎学期「総合テスト」及び「授業アンケート」を実施・分析し、目標の達成度を検証している。2014年秋学期に実施した最終授業時の履修者アンケートでは、「文献情報の探し方がとても役にたった」、「本の検索がスムーズに行えるようになった」などの文献検索スキルに関する感想と、「レポート・論文の書き方がよくわかった」というレポート・論文作成に役に立ったとする感想が多く挙げられ、本授業が学生の情報リテラシー及び学術リテラシーの向上に効果を上げていることが示されている【4(4)-33-1, 4(4)-33-2】。毎年、履修者アンケート結果をもとにして、授業改善に結びつけている。</p> <p>2012年度末から始めた図書館活用法の『授業履修者の4年次における追跡アンケート調査』を2014年度末にも実施した。その結果、回答者のほぼ全員が、「授業・勉強などの学修の場で授業内容が役立つ」と答えた。具体的には、「レポート、論文執筆時に、必要とする資料を見つけることができた」「他キャンパス等の図書館を利用して、資料を入手することができた」などの回答があり、本授業を履修することで身についた情報リテラシースキルが、3・4年次になった段階においても役立っていることが示され、履修中ばかりではなく長期的に効果を上げていることが判明した【4(4)-33-3】。また、前出の『追跡アンケート』において「1年次での履修が効果的」との結果が出ているため、1・2年生の履修者を増加させることを目的に、和泉キャンパス（文系1・2年生のキャンパス）における開講時限を2014年度も引き続き春学期・秋学期とも2時限ずつ開講した。しかし、レポート作成に関わる学習達成目標の達成度を評価する「ループリック」を今後活用することを試行的に始めたばかりで、全体的な評価活動の実行までには至っていない【4(4)-33-4, 4(4)-33-5】。</p>		レポート作成に関わる学習達成目標の達成度を評価する「ループリック」を活用することを始めたがまだ実現までには至っていない。		図書館活用法の授業に関わる教職員がループリックの作成方法を学び、評価指標の開発を始める。	ループリックによる評価指標の開発によって、学生の学習達成度を検証し、その結果から教育課程や教育方法の改善につなげていく。	4(4)-33-1 図書館活用法TF会議資料「『図書館活用法』2014年度秋学期総合テスト&アンケート結果」 4(4)-33-2 図書館活用法TF会議資料「図書館活用法結果一覧」（駿河台・和泉春学期/秋学期・生田・中野） 4(4)-33-3 図書館活用法TF会議資料「『図書館活用法』授業履修者4年次アンケート実施結果」 4(4)-33-4 「大学図書館におけるリテラシー教育効果の評価—明治大学『図書館活用法』授業評価を事例として—」矢野恵子『(図書の譜)18号, 209～220頁)2014年3月発行 4(4)-33-5 「教育効果を促進するためのレポート（・論文）ループリック」渡邊有樹子

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt + Enterで簡条書きに	
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<b>(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか</b>								
a	● 学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針を、当該大学の理念、目的を踏まえて、定めているか。	<p>図書館の理念・目的を達成するために、老朽化した、あるいは不足する図書館施設を更新し、適切な施設・設備を整備する。また、図書及び電子媒体の利用環境を整備し、快適な利用環境を提供する【7-33-1:300~305頁】。</p> <p>図書館の教育研究等環境の目的は、教育・研究に関する年度計画書において掲げている。老朽化した、あるいは不足する図書館施設を更新し、適切な施設・設備を整備し、また図書及び電子媒体の快適な利用環境を提供する。2014年度は、基本コンセプト専門部会報告書に掲げたコンセプトに基づき、2012年5月1日に開館した和泉図書館の運営が定着し、2013年4月には中野キャンパスの特性を活かした中野図書館が開館し、運営を行っている【7-33-2】。</p> <p>マンガ図書館に関しては、「『東京国際マンガ図書館』（仮称）設置大綱」及び「明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書」に必要な施設設備を掲げている【7-33-3, 7-33-4】。</p>						7-33-1 2014年度教育・研究に関する年度計画書 7-33-2 和泉キャンパス新図書館建設委員会基本コンセプト専門部会基本コンセプト専門部会報告書（2008年7月25日） 7-33-3 「東京国際マンガ図書館」（仮称）設置大綱（2010年3月11日） 7-33-4 明治大学国際マンガ図書館（仮称）検討専門部会報告書（2013年2月28日）
<b>(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか</b>								
a	● 方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制や衛生・安全を確保する体制を備えているか。	<p>①校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成</p> <p>図書館の利用者座席数は、大学基準協会の図書館基準に示されたことがある学生収容定員の10%が一つの目安となる。中央図書館は座席数は1,262席で、かろうじて座席数割合が10.7%で基準を満たしているが、生田図書館は座席数は712席で、座席数割合が9.4%となりこの基準に達していない。一方、和泉図書館は、新図書館が2012年に開館し、座席数が大幅に増え11.3%となった。2013年4月からは国際日本学部が和泉キャンパスから中野キャンパスへ移転したことにより学生数が減ったため、2014年度では12.2%と基準を上回る改善が図られた。さらに、和泉図書館の閲覧席については、様々な利用者が満足できるように、いくつもの種類の閲覧席を設置している。中野図書館は2013年4月1日に開館したが、座席数は172席で、座席割合は初年度の学生数の10%は満たしていたものの、2013年度は7.4%となり、2014年度は6.6%まで下がってしまった。現状のままでは総合数理学部の1年生から4年生まで4学年が揃う、2016年度ではさらに劣悪になる【7-33-5, 7-33-6表48】。</p> <p>中央図書館は、ネットワーク等情報関連設備は過不足なく設置され、学生用情報設備も充実している。和泉図書館は、館内無線LANの整備、貸出ノートPCロッカーの設置、プレゼンテーション設備の設置、デジタルサイネージを駆使した情報伝達など情報関連設備は十分整っている。生田図書館は、パソコンの設置やプレゼンテーション設備及び無線LANの情報関連設備の整備を数年かけて行い、学生用情報機器の充実やネットワークの整備は、従来より改善された【7-33-5】。中野図書館は、プレゼンテーション設備はあるものの、貸出ノートPCロッカーの設置はないが、中野キャンパス内のセルフアクセスセンターでPCの利用ができる。図書館内のネットワークの整備により、小規模図書館ながら学生の学習環境はほぼ整っている。しかし、中野図書館は、試験期の臨時自習室の設置など行っているが、全体的に規模が小さいことから、蔵書数、座席数、グループ閲覧室などの学習スペースなど、全般にわたり不足している。</p>		中野キャンパスにおいて、中野図書館の狭隘さ及び蔵書数の少なさは、教育・研究・学習環境において劣悪と言える。中野キャンパス二期工事の実現に向けて絶えず声を上げていくことが必要であるが、二期工事までの間の対応について、計画立案、調整を行う。		中野図書館の蔵書構成計画及び生田保存書庫、和泉図書館などへの中野図書館の蔵書移転案をまとめる。他キャンパス図書館についても書架スペースの問題を抱えており、中野図書館と同様に蔵書構成計画が必要なため、図書館全体として検討し、計画を立てる。	中野キャンパス二期工事実施に向けて、図書館として蔵書構築、設備計画など、中野図書館の建設計画案をまとめる。	7-33-5 2014年度図書館年次報告書（2015年6月末刊行予定） 7-33-6 明治大学データ集 7-33-7 明治大学和泉キャンパス新図書館（仮称）基本設計（抜粋） 2010年3月3日理事会承認 7-33-8 明治大学2階図書メディアセンター自立書架[備品設計図]

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
	<p>マンガ図書館は、米沢嘉博記念図書館の開館後に受け入れた寄贈資料の十分な配架スペースがなく、学内に分散して保管している。しかし、開館以降継続して資料の受入れや購入を行っているため、学内の空きスペースもなくなりつつあることから、学外施設倉庫の賃借を検討せざるを得ない状況となっている。</p> <p>②校地・校舎・施設・設備の維持・管理,安全・衛生の確保 施設のバリアフリー化は、生田図書館を除いてほぼ実現している。生田図書館は車椅子利用者のための施設整備は行われているが、現在利用者入口からの出入りはできない。そのため、2014年度に予算要求をし、2015年度中に工事を行う予定である。また、視覚障害者のための閲覧室、点字ブロック等の整備も行われていない【7-33-5】。</p> <p>地震時における書籍落下防止策については、和泉図書館及び中野図書館では書架の構造計画時から検討し、これを反映している【7-33-7, 7-33-8】。また、中央図書館では、1F・B1F開架エリアの通路部分、書庫B2上層などの書架の各最上段に、落下防止柵板を導入している。その他、生田図書館でも一部であるが導入している。</p>						
(3) 図書館, 学術情報サービスは十分に機能しているか							
<p>a ① 図書、学術情報サービスに関する方針の明確化 ② 図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性 ③ 図書館の規模、司書等の資格を有する職員配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境 ④ 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備 ⑤ ラーニングコモン機能を発揮する学習支援機能の充実 (※明大オリジナル項目)</p> <p>&lt;図書, 学術情報サービスに関する方針の明確化&gt;</p>	<p>&lt;図書、学術情報サービスに関する方針の明確化&gt; 明治大学図書館(中央図書館, 和泉図書館, 生田図書館, 中野図書館), 明治大学マンガ図書館(米沢嘉博記念図書館, 現代マンガ図書館), ローライブラリー, 博物館図書室, メディアライブラリーにおいて図書・学術情報サービスを提供している【7-33-6 表49・表50】。</p> <p>明治大学図書館の図書・学術情報サービスに関する方針は、「図書館規程」及び「教育・研究に関する年度計画書(図書館)」において明示している。図書館は教育・研究支援の中核機関であり、教育研究及び学習に必要な学術資料を収集・整理・保存及び提供、初年次導入教育の一端を担う図書館リテラシー教育機能を提供することにより、教育研究の進展と学術の発展に広く寄与することを目的としている【7-33-1:300~305頁, 7-33-9】。特に、近年必要性が高まっているラーニング・コモンズ機能を、2012年度開館した和泉図書館において実現した。</p> <p>「明治大学マンガ図書館」は、現在「米沢嘉博記念図書館」及び「現代マンガ図書館」の2館で構成し、将来的に設置される「明治大学東京国際マンガミュージアム(仮称)」の先行施設として位置付けている。「明治大学東京国際マンガミュージアム(仮称)」は、2011年度に作成した「明治大学国際マンガ図書館(仮称)設置準備委員会報告書」に基づき、さらに検討を重ね、「明治大学国際マンガ図書館(仮称)検討専門部会報告書」として設置構想をまとめた【7-33-4】。</p> <p>これらの方針は毎年、図書館に関しては「図書委員会」において【7-33-9】、マンガ図書館に関しては「マンガ図書館運営委員会」において、年度計画策定時に確認している【7-33-10】。</p>		<p>図書館ホームページの中野図書館の案内には、フロアマップしか掲載されていない。</p> <p>多言語図書館利用案内(英語, 中文簡体, 中文繁体, ハンダ)について、改訂版が出ていない。また、中野図書館の記述がない。</p>		<p>多言語図書館ホームページ及び多言語図書館利用案内について、図書館広報部会で問題点を抽出し、改善方法を検討する。</p> <p>中野図書館の英語版利用案内を他キャンパス図書館と同様に作成し、ホームページ上で公開する。</p>	<p>全図書館を対承とした多言語図書館ホームページ及び多言語図書館利用案内の改訂作業の体制作りと作業計画を策定する。</p>	<p>7-33-1 2014年度教育・研究に関する年度計画書 7-33-4 明治大学国際マンガ図書館(仮称)検討専門部会報告書(2013年2月28日) 7-33-6 明治大学データ集 7-33-9 明治大学図書館規程 7-33-10 明治大学マンガ図書館規程</p>



# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt + Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性>	<p>&lt;図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性&gt;</p> <p>各図書館及び博物館図書室を合算した蔵書数は、図書が2,645,854冊、雑誌が42,402タイトルである【7-33-5, 7-33-6 表50】。館外貸し出し数は総数で417,417冊、総入館者数は延べ1,840,949人である【7-33-5, 7-33-6 表50】。各館とも、各学部等のシラバスに掲載されている参考図書は、各館内「シラバス本コーナー」に設置している。</p> <p>主要施設である図書館の資料購入予算は約6.8億円であり、「学術専門図書費」「学習用図書費」「逐次刊行物費」「電子資料費」に大枠で分け、図書委員・図書館員による委員会形式の恒常的な選書体制を整え、体系的な資料の収集に努めている【7-33-11～21】。</p> <p>電子的資料について、電子ジャーナルでフルテキストを提供できるタイトル数は、2014年度は28,926タイトルである【7-33-6 表50】。2008年度から電子ジャーナルの契約を進め、新規購読雑誌の電子オンリー契約、パッケージ契約をし、人文・社会科学系の充実を図ってきた。また、e-book、バックファイル及びデータベースも契約を維持した。またリンクリゾルバは電子資料の利用環境の向上に資しているため、契約を継続した。</p> <p>図書館サービスの満足度の検証と向上のため、各図書館に「意見箱」を設置し、概ね月1回の頻度で回答を掲示し、利用者の声を反映している【7-33-22】。図書館ホームページ上では、「オンラインナレッジサービス」を公開し、利用者からの調査依頼や要望をオンラインで行い、レファレンスの実績を蓄積している【7-33-23】。2013年度から、公式Twitterを公開して、図書館広報として活用している【7-33-24】。</p>		電子ジャーナル、データベース等電子資料契約金額の図書費全体に占める割合が増え続けているため、研究用図書、学習用図書の購入金額が減少している。		電子ジャーナル、データベース等電子資料契約について、電子ジャーナル契約検討WGにて検討を継続する。	<p>7-33-5 2014年度図書館年次報告書(2015年6月末刊行予定)</p> <p>7-33-6 明治大学データ集</p> <p>7-33-11 明治大学図書館収書部会運営内規</p> <p>7-33-12 明治大学図書館電子資料分科会運営内規</p> <p>7-33-13 明治大学図書館特別資料選定分科会運営内規</p> <p>7-33-14 明治大学図書館学習用図書選書分科会運営内規</p> <p>7-33-15 明治大学図書館中央図書館学習用図書選書分科会運営内規</p> <p>7-33-16 明治大学図書館図書館基礎資料選定分科会運営内規</p> <p>7-33-17 明治大学図書館アフリカ文庫選定分科会運営内規</p> <p>7-33-18 明治大学図書館蘆田文庫選定分科会運営内規</p> <p>7-33-19 明治大学図書館江戸文藝文庫選定分科会運営内規</p> <p>7-33-20 明治大学図書館ケベック文庫選定分科会運営内規</p> <p>7-33-21 明治大学図書館日本近代文学文庫選書分科会運営内規</p> <p>7-33-22 図書館ホームページ「意見・要望に関する回答」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/about/reply/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/about/reply/index.html</a></p> <p>7-33-23 図書館ホームページ「オンラインナレッジサービス」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/search/knowledge/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/search/knowledge/index.html</a></p> <p>7-33-24 図書館ホームページ「公式Twitter」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/">http://www.lib.meiji.ac.jp/</a></p>

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>&lt;図書館の規模、司書等の資格を有する職員配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境&gt;</p>	<p>図書館には、専任職員、嘱託職員、派遣職員及び業務委託者合わせて138名が勤務している。司書及び司書補有資格者は全体で98名となり、70%を超える。業務委託者についても70%を超えており、今後もカウンター業務及び目録業務において、図書館の専門知識を有する人員の配置を維持していく。</p> <p>2014年度は、大学全体の一律15%の予算削減に伴い、開館業務委託費についても削減対象となった。そのため、2014年度予算額内示の段階から開館日・開館時間について検討を行った。その結果、2014年度当初（4月～5月）の開館日・開館時間は下記のとおりであった。</p> <p>(1) 開館時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全館とも通常期平日の開館時間を1時間短縮し、閉館時間を21時とした。</li> <li>・生田図書館のみ、通常期土曜日の開館時間を10時～17時とした。</li> </ul> <p>(2) 開館日</p> <p>全館とも開館日を大幅に削減した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央図書館 304日（2013年度より34日減）・和泉図書館 301日（2013年度より27日減）</li> <li>・生田図書館 316日（2013年度より25日減）・中野図書館 286日（2013年度より56日減）</li> </ul> <p>6月2日からは、教育・研究支援の観点から予算追加が認められ、下記のとおり開館時間・開館日の拡大を実施した。</p> <p>(1) 開館時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央・和泉・中野図書館の通常期平日の開館時間を1時間延長し、閉館時間を22時に戻した。ただし、生田図書館は、通常期土曜日の開館時間延長を優先させたため、現状のままとした。</li> <li>・生田図書館の通常期土曜日の開館時間を、8時30分～19時に戻した。</li> </ul> <p>(2) 開館日</p> <p>夏季休暇中の開館日を、全館それぞれ5日間拡大した。各館の開館日は、中央図書館314日、和泉図書館305日、生田図書館321日、中野図書館291日となった。予算追加に伴い、通常期平日・土曜日の開館時間・開館日数は2013年度並に戻ったが、休日、各休暇中の開館日は縮小したままだった。特に、入試期間中、昨年度までは開館していた中央図書館を休館としたため、大学院生、教員から多くのクレームが寄せられた。入試期間中に休館した中央・和泉図書館では、業務委託スタッフの出勤がなかったため、専任職員が貸出図書返却処理、配送依頼図書処理等を行って、休館に伴うサービス低下を抑えた【7-33-5】。</p> <p>各館においてインターネット接続環境を整備し、パソコンを用意している。検索用のデスクトップ型パソコンだけでなく、中央図書館、和泉図書館、生田図書館では貸出用ノートパソコンも用意し、図書館全館では543台のパソコンを保有している【7-33-5】。中野図書館は、小規模図書館のため図書館内に貸出用ノートパソコンの設置はないが、中野キャンパス内のセルフアクセスセンターにあるパソコンを利用できる環境にある。</p>					7-33-5 2014年度図書館年次報告書（2015年6月末刊行予定）

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画			根拠資料  Alt + Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画			
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>&lt;国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備&gt;</p>	<p>&lt;国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備&gt;</p> <p>図書館における他大学との協力については、本学、青山学院大学、学習院大学、國學院大學、東洋大学、法政大学、明治学院大学、立教大学の8大学で「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」を形成し【7-33-25】、相互の学生・教職員が各大学の図書館を利用できる体制を構築し、その中で本学図書館は他大学から最も利用される図書館となっている【7-33-5, 7-33-25】。また国立情報学研究所情報資料センター（N I I 資料センター）との大学院学生レベルの相互利用を実施しており、2011年度には駿河台キャンパス近隣の東京医科歯科大学図書館と相互利用協定を締結している【7-33-26, 3-7-27】。</p> <p>その他、中央図書館では千代田区立図書館と相互協定を締結し、和泉図書館では杉並区図書館ネットワークを形成することにより、女子美術大学、高千穂大学、東京立正短期大学、立教女学院短期大学との相互利用を実現した。2013年11月には、和泉図書館と世田谷区立図書館と図書館利用の覚書を締結し、同年12月より世田谷区民への和泉図書館の開放が始まった。生田図書館では川崎市立の全ての図書館との連携を実現した。</p>		<p>中野図書館は、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムでの利用は、開館した翌年の2014年度から始まった。しかし、他キャンパス図書館のように、地域開放が実現していない。</p>		<p>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</p>	<p>「改善を要する点」に対する発展計画 H列にあれば記述</p> <p>協同での講演会の開催など、中野図書館の施設開放ではない連携を進める。</p>	<p>「改善を要する点」に対する発展計画 H列にあれば記述</p> <p>中野図書館の施設の拡充等が実現し、利用環境が整い次第中野図書館と中野区立図書館と協定を結び、中野図書館の地域開放を実現させる。</p>	<p>7-33-5 2014年度図書館年次報告書（2015年6月末刊行予定）</p> <p>7-33-25 明治大学図書館ホームページ「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/use/yamanote/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/use/yamanote/index.html</a></p> <p>7-33-26 明治大学図書館ホームページ「NII資料センター」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/use/nii/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/use/nii/index.html</a></p> <p>7-33-27 明治大学図書館ホームページ「東京医科歯科大学図書館」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/use/tmdu_m/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/use/tmdu_m/index.html</a></p>
	<p>学術情報のオープンアクセスについては、「機関リポジトリ」のシステムが貢献している。2007年度に図書委員会の下に「学術・教育成果リポジトリ運営部会」を設置し、各学部、教授会の了承を得、本学の紀要、研究報告書等の著作権処理の手続を実施した【7-33-28】。登録公開論文数は12,700件を超えた。これらはホームページに公開されている【7-33-29】。</p> <p>また、学位規則の一部を改正する省令(平成25年度文部科学省令第5号)に伴い、博士論文のインターネット上での公開が義務化され、2014年度には、2013年度に授与された博士論文52件が登録公開された【7-33-5】。</p> <p>図書館は、「蘆田文庫」の古地図など、貴重書のデジタル化を進めており、通常は閲覧不可の資料も図書館ホームページから容易にアクセスして閲覧できる。このようにデジタル化した資料を公開することは、社会貢献のひとつといえる。</p>		<p>機関リポジトリへの登録対象物のほとんどが大学紀要類であり、商業出版物の学術論文の掲載がほとんどない。</p>		<p>機関リポジトリへの商業出版物の学術論文の掲載について、教員へ協力依頼を始める。</p>	<p>機関リポジトリへの商業出版物の学術論文の掲載について、教員へ協力依頼を継続し、掲載を義務化させるような「機関リポジトリ方針」を作成し、オープンアクセス化を推進させる。</p>	<p>7-33-5 2014年度図書館年次報告書（2015年6月末刊行予定）</p> <p>7-33-28 明治大学学術・教育成果リポジトリ運営部会運営内規</p> <p>7-33-29 図書館ホームページ「Meiji Repository：明治大学学術成果リポジトリ」 <a href="https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/index.jsp">https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/dspace/index.jsp</a></p>	

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt + Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<ラーニング・commonsの機能を発揮する学習支援機能の充実>	<ラーニング・commonsの機能を発揮する学習支援機能の充実> 本学は、図書館を「教育の場」として積極的に位置づけ、図書館の活用を教育課程に取り込んでいる。この取組みは、学部教育における導入教育として位置づけられ、専門教育の学習支援としても有効である。具体的には、全ての学部生が履修可能な学部間共通総合講座「図書館活用法」による体系的な情報リテラシー教育、各学部の授業（演習）の中で実施する「図書館ガイダンス」などによる教育活動の展開である。これは教員、学生からの評価が高く、年々規模を拡大している【7-33-5】。 「図書館活用法」とは、情報・資料検索技術の実践的学習を土台に、集めた情報・知識をレポート・論文の作成に生かす基本的技法を学ぶ科目である【7-33-30】。特色としては、教員と図書館員が教職協働して教育にあっていること、また単位認定されることである。この科目は全4キャンパスで開講され、授業は動画コンテンツ化されており、図書館ホームページで公開されている【7-33-31】。授業内容についてはプログラム評価を行い、検証結果は次年度の授業計画に反映されている。「図書館ガイダンス」とは、授業1回を使い、図書館の利用方法、文献の探し方等を学ぶもので、実習形式で行われる。一般的な図書館ガイダンスとは異なり、個々の授業科目を担当する教員の要望に応じて、図書館員が図書館の施設・資料案内、情報検索実習などをコーディネートし、効果的な教育支援を行うところに大きな特徴がある。教員からの要望に応え、2014年度には、中央図書館は56回、和泉図書館は170回、生田図書館は21回、中野図書館は21回実施した。その他にも「レポートの書き方講座」や「各種データベースの利用講座」は、図書館スタッフ・大学院学生を講師として随時開催している【7-33-5】。					7-33-5 2014年度図書館年次報告書（2015年6月末刊行予定） 7-33-30 図書館活用法シラバス（学部間共通総合講座シラバスから当該部分を抜粋） 7-33-31 図書館ホームページ「図書館活用法デジタルコンテンツ」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/stream/C06850011.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/stream/C06850011.html</a>
	2012年5月に開館した和泉図書館は、グループ学習機能を有する「グループ閲覧室」、「共同閲覧室」、「コミュニケーションラウンジ」を設置している。設計時からグループ学習機能を重視し、ディスカッションやプレゼンテーションができる場所を設け、加えて、「ホール」、「サロン」を設置した【7-33-32】。 各図書館では、様々な図書館企画を実施し、学習活動を支援している。具体的には、和泉図書館では「ビブリオバトル」「ブックハンティング」「ブックシェアトーキング」「大学院学生によるレポートの書き方講座」「留学生講演会」「学生による特設図書コーナー企画」「学生による就職活動体験講座」などの学習支援を実施した【7-33-5】。 その他、中央・和泉・生田図書館にはギャラリーを設け、ゼミ、公認サークルなど学生生活動の研究発表、本学教員の研究成果発表、図書館資料の紹介のために利用している。中野図書館には図書館ギャラリーは設置されていないが、図書館ゲート近くに特設コーナーを設け、学生の読書推進のために様々な企画展示を行っている。					7-33-5 2014年度図書館年次報告書（2015年6月末刊行予定） 7-33-32 明治大学和泉図書館パンフレット

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<b>(6) 教育研究等環境の適切性の検証プロセスを機能させ、改善につなげているか。</b>							
<学術情報サービスの検証システム>	<p>&lt;学術情報サービスの検証システム&gt;</p> <p>学術情報サービスを担う図書館においては、「図書館自己点検・評価委員会」を設置し、検証主体としている。</p> <p>「図書館自己点検・評価委員会」は図書委員会の下に置かれ、副館長1名を委員長とし、図書委員2名、図書館事務管理職3名を委員とする。毎年学長に提出する「教育・研究に関する年度計画書」の達成状況を検証し、「自己点検・評価報告書」を作成する。また毎年「図書館年次報告書」を刊行し、前年度の諸活動を総括し、図書館活動の自己点検・評価に活用している【7-33-5】。さらに「図書・雑誌・電子資料の購入希望受付」、「投書による教職員や学生の意見受付」、「オンラインナレッジを利用した質問受け」等を行い、利用者へのフィードバックとしてホームページを通じて「意見・質問への回答」を公表することにより、利用者の声を反映した改善活動につなげている【7-33-22, 7-33-33】。</p>		<p>図書委員会の下に「図書館自己点検・評価委員会」を設置しているが、限られたメンバーで点検・評価活動を行なっている。そのため、図書館全館的に問題点・改善点等が共有できていない。</p>		<p>自己点検・評価活動での問題点・改善点等の情報共有を行えるように職場研修等を実施する。</p>	<p>図書館の全館的な点検・評価活動となるような自己点検・評価システムを策定する。</p>	<p>7-33-5 2014年度図書館年次報告書(2015年6月末刊行予定)</p> <p>7-33-22 図書館ホームページ「意見・要望に関する回答」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/about/reply/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/about/reply/index.html</a></p> <p>7-33-33 「オンラインナレッジ検索」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/use/faq/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/use/faq/index.html</a></p>

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第8章 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか</b>						
a ●社会連携・社会貢献に関する方針を定めているか。 ●教職員・学生が方針を共有しているか。	図書館運営について自己点検・評価を行い、評価結果をふまえて改善すべき点を明らかにし、評価される点をさらに発展・充実させるよう年度計画に反映させる。 ①評価に関する委員会等の設置(名称、メンバー、年間開催回数)					
<b>(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか</b>						
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	①地域住民への開放 図書館の開放については、中央図書館では、2003年3月に「千代田区立図書館と明治大学図書館との相互協力に関する覚書」を締結し、千代田区民に対する中央図書館の開放を実現した。この協定により、千代田区民は、中央図書館の利用が可能になった【8-33-1】。和泉図書館では、2004年7月に「杉並区立図書館及び杉並区内大学・短期大学図書館の相互協力に関する協定書」を締結し、これに伴い誕生した「杉並区図書館ネットワーク」に参加することにより、杉並区民に対する和泉図書館の開放を実現した。この協定により、杉並区民は、和泉図書館の利用が可能になった【8-33-2】。また、2013年11月には和泉図書館と世田谷区立図書館との間で、図書館の利用に関する覚書を締結した。これにより同年12月から世田谷区民の和泉図書館の利用が可能となった【8-33-3】。生田図書館では、2006年3月に川崎市多摩区民への生田図書館の開放に関する覚書を川崎市多摩区と交わし、2006年4月から区民への開放を実現した。さらに同協定を発展させ、2010年3月に、全川崎市立図書館と生田図書館との間で相互協力の覚書を締結した【8-33-4】。 ②展示会・講演会の開催 中央図書館ギャラリー、和泉図書館ギャラリー、生田図書館ギャラリーにおける展示会、杉並区図書館ネットワークにおける各種講習会、講演会企画への和泉図書館の参加など地域へ開放する諸活動を展開している【8-33-5】。 ③司書講習との連携 夏期に開催するリバティアカデミー主催の司書講習には、図書館職員が講師として出講し、それぞれ業務で蓄積した経験を生かして指導に当たっている。実習授業の際は、図書館の利用、グループ閲覧室の利用等を認め支援している【8-33-6】。 ④本学関係者への図書館開放		中野キャンパスにおいて、中野図書館の狭隘さ及び蔵書数の少なさは、教育・研究・学習環境において劣悪と言える。 そのため中野図書館だけが他の図書館のように地域開放が実現できていない。 中野キャンパス二期工事の実現に向けて絶えず声を上げていくことが必要であるが、二期工事までの間の対応について、計画立案、調整を行う。		中野図書館の蔵書構成計画及び生田保存書庫、和泉図書館などへの中野図書館の蔵書移転案をまとめる。 他キャンパス図書館についても書架スペースの問題を抱えており、中野図書館と同様に蔵書構成計画が必要のため、図書館全体として検討し、計画を立てる。	中野キャンパス二期工事実施に向けて、図書館として蔵書構築、設備計画など、中野図書館の建設計画案をまとめる。 8-33-1 千代田区立図書館と明治大学図書館との相互協力に関する覚書 8-33-2 杉並区立図書館及び杉並区内大学・短期大学図書館の相互協力に関する協定書 8-33-3 世田谷区立図書館と明治大学和泉図書館の相互協力に関する覚書 8-33-4 川崎市立図書館と明治大学生田図書館の相互協力に関する覚書 8-33-5 2014年度図書館年次報告書(2015年6月末刊行予定) 8-33-6 図書館司書 夏期講習のご案内 明治大学リバティアカデミー 8-33-7 明治大学図書館利用規程 8-33-8 明治大学マンガ図書館利用規程 8-33-9 米沢嘉博記念図書館報告書2014年度

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第8章 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		Alt+Enterで簡条書きに
	<p>図書館は、本学の卒業生、附属高等学校の教職員・生徒、大学の公開講座リベティアカデミー会員等にも開放している。ライブラリーカードを作成すれば、貸し出しも可能である【8-33-7】。</p> <p>⑤マンガ図書館の開放 米沢嘉博記念図書館は、1Fの展示室（ギャラリー）を無料公開している。2Fの閲覧室利用は会員手続き（有料）により18歳以上であれば誰でも利用可能としている。現代マンガ図書館は、入館料の支払い、あるいは会員手続き（有料）により利用可能としている。なお、本学学生・教職員は、両マンガ図書館を無料で利用可能である【8-33-8】。</p> <p>⑥米沢嘉博記念図書館の企画展示 米沢嘉博記念図書館では、2014年度では4回の企画展示を開催した。特に、「次元の壁を越えて 初音ミク 実体化への情熱展」（会期：2014年1月31日～6月1日）については、巨大張り子の貸与等で、鳥取県米子市の協力を得ている。また、「『昭和元禄落語心中』雲田はるこ展」（会期：2014年6月6日～9月28日）では、鳥取県の協力を得た。この他、各展示会に合わせて、関連講演会やトークイベントも開催し、見学者・参加者は全国から来館している【8-33-9】。</p>						

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第9章 管理運営・財務

### 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。</b>						
a ●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。	図書館運営について自己点検・評価を行い、評価結果をふまえて改善すべき点を明らかにし、評価される点をさらに発展・充実させるよう年度計画に反映させる。 ①評価に関する委員会等の設置(名称、メンバー、年間開催回数) 「図書館自己点検・評価委員会」委員:副館長1名(委員長)、図書委員2名、図書館事務長3名、事務局:図書館総務事務長、図書館総務事務室 2014年度は、メールによるオンラインミーティングにて点検・評価を行った【9(1)-33-1】。 ②評価報告書等の作成、公表 2014年度明治大学自己点検・評価報告書に掲載し公表予定。					9(1)-33-1 2014年度図書館各種委員会委員構成
<b>(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか</b>						
a ◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用	各種委員会は、それぞれ内規を整備し、これに基づき運営を行っている【9(1)-33-2~17】。この他、業務委託に関わる法令遵守および個人情報の保護に特に注意している。業務委託は、偽装請負等の問題が生じないよう、契約の大きな変更がある場合は、大学顧問弁護士に契約内容、業務委託内容等の確認を必ず行っている。また、個人情報の保護については、「図書館における個人情報の保護に関する要綱」に基づき、図書委員1名を監査人に任命し、図書館の当該事項を1年に1度監査する制度を設けている【9(1)-33-18】。 また、マンガ図書館は、明治大学マンガ図書館規程に基づき、マンガ図書館運営委員会を設置し、運営に関する事項を審議する体制となっている【9(1)-33-19】。					9(1)-33-2 明治大学図書館収書部会運営内規 9(1)-33-3 明治大学図書館特別資料選定分科会運営内規 9(1)-33-4 明治大学図書館電子資料分科会運営内規 9(1)-33-5 明治大学図書館学習用図書選書分科会運営内規 9(1)-33-6 明治大学中央図書館学習用図書選書分科会運営内規 9(1)-33-7 明治大学図書館図書館基礎資料選定分科会運営内規 9(1)-33-8 明治大学図書館アフリカ文庫選定分科会運営内規 9(1)-33-9 明治大学図書館蘆田文庫選定分科会運営内規 9(1)-33-10 明治大学図書館江戸文藝文庫選定分科会運営内規 9(1)-33-11 明治大学図書館ケベック文庫選定分科会運営内規 9(1)-33-12 明治大学図書館日本近代文学文庫選書分科会運営内規 9(1)-33-13 明治大学学術・教育成果リポジトリ運営部会運営内規 9(1)-33-14 明治大学図書館広報部会運営内規 9(1)-33-15 明治大学図書館紀要編集部会運営内規 9(1)-33-16 明治大学図書館書評コンテスト選考部会内規 9(1)-33-17 明治大学生田図書館ギャラリー運営部会運営内規 9(1)-33-18 図書館における個人情報の保護に関する要綱 9(1)-33-19 明治大学マンガ図書館規程



# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第9章 管理運営・財務

### 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料  Alt+Enterで箇条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<b>(3) 付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか</b>							
a ●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。	<p>①事務組織の構成と人員配置の適切性 5つの事務室が図書館運営全般に携わっている。図書館総務事務室は図書館の庶務・システム及び資料の整理業務を担当する。中央図書館事務室、和泉図書館事務室、生田図書館事務室及び中野図書館は、各図書館の蔵書管理・閲覧サービス・レファレンス業務・雑誌管理等の主に利用者サービス業務を担当する【9(1)-33-20, 9(1)-33-21】。図書館総務事務室、中央図書館事務室、和泉図書館事務室、生田図書館事務室は、学術・社会連携部に所属し、中野図書館は中野キャンパス事務部中野教育研究支援事務室の所管となっていて、サービス部門を中心に、図書館業務の多くは業務委託を行っている。閲覧業務の全部、レファレンス業務の一部分を業務委託し、更に整理業務の3分の2程度を業務委託している。</p> <p>また、マンガ図書館は、現在運営業務を担う事務組織が存在せず、図書館総務事務室がこれを兼務している。</p> <p>②事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策 事務組織は、管理運営部門（図書館総務事務室）とサービス部門（中央図書館事務室、和泉図書館事務室、生田図書館事務室）に大別される。図書館総務事務長を議長とし、学術・社会連携部長、各図書館事務長で構成される事務部長・図書館事務長会を適宜開催し、大学の諸方針の伝達、図書館運営に関わる諸問題の検討、企画・立案等を行っている【9(1)-33-22】。また、委員を各学部・研究科から選出される図書委員会を通じて教学との連携を確立している。</p> <p>マンガ図書館のうち米沢嘉博記念図書館は、図書館総務事務室の下で専門的能力を持つ特別嘱託職員により業務が行われている。また、現代マンガ図書館は、株式会社ないきとの業務委託契約で運営されていた。しかし、2014年12月15日で業務委託契約が終了したため、特別嘱託の雇用及び株式会社明大サポートとの派遣契約によって、これまで運営に携わっていた専門的知識を有するスタッフが運営に携わる大学直接運営へと変更になった。</p> <p>③業務委託によるサービス体制 業務委託に関わる法令遵守および個人情報の保護に注意している。業務委託に関しては、偽装請負等の問題が生じないよう、大きな契約変更の際には、大学顧問弁護士に契約内容、業務委託内容等の確認を行っている。また、個人情報の保護については、「図書館における個人情報の保護に関する要綱」に基づき、図書委員1名を監査人に任命し、図書館の当該事項を1年に1度監査する制度を設けている【9(1)-33-18】。</p>		専門性を高めるための研修等の場は整備されているものの、従来想定されていた図書館員としてのキャリアパスが適用しにくい状況となっている。特に図書館職員としてのキャリアの第一歩となる目録業務の委託化は、図書館の人材育成にとって大きな課題となっている。		2013年度に立ち上げた「図書館職員育成に関するWG」にて、図書館職員の育成について検討を進め、検討結果をまとめる。	「図書館職員育成に関するWG」にてまとめた検討案に従い図書館職員の育成を行う。	9(1)-33-18 図書館における個人情報の保護に関する要綱 9(1)-33-20 学術・社会連携部事務分掌内規 9(1)-33-21 事務組織規程 9(1)-33-22 事務部長・図書館事務長会議事録 2014年度第1～9回
<b>(4) 事務組織の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか</b>							
a (有効性、検証システムと改善状況) ●事務職員の資質向上に向けた研修などを行うことによって、改善につながっているか。	<p>図書館職員の資質の向上を図るため、毎年予算化して各種の専門的な外部研修に派遣している。こうした外部研修に加え、図書館職員の自発的な研修意欲を高めるために、2005年度から図書館自主研修制度を設けている【9(1)-33-23】。また「図書の譜：図書館紀要」を1997年に創刊し、2014年度に第19号を刊行した。毎号、図書館の知的資産である蔵書を中心としたテーマ設定により、教員と図書館職員が約半数ずつ、合計20本近い論考を掲載し、職員の自己研鑽の場のひとつとなっている【9(1)-33-24】。</p>						9(1)-33-23 図書館研修プロジェクト申請書「蘆田文庫研究会」「明治大学図書館コレクション研究会」「図書館利用環境整備推進プロジェクト(プロジェクト・アイ)」 9(1)-33-24 「図書の譜：明治大学図書館紀要」第19号(2015年3月)

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料															
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述																
<b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果しているか</b>																					
a ◎自己点検・評価を定期的に行い、公表していること 【約400字】	図書館運営について自己点検・評価を行い、評価結果をふまえて改善すべき点を明らかにし、評価される点をさらに発展・充実させるよう年度計画に反映させる。 ①評価に関する委員会等の設置 (名称, メンバー, 年間開催回数) 【10-33-1】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">委員会等の名称</th> <th style="width: 40%;">主なメンバー, 人数</th> <th style="width: 40%;">開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館自己点検・評価委員会</td> <td>委員: 副館長, 図書委員2名, 図書館事務長3名 事務局: 図書館総務事務長, 図書館総務事務室</td> <td>メールによるオンラインミーティングにて点検・評価を行っている。</td> </tr> <tr> <td>博物館自己点検・評価委員会</td> <td>館長, 副館長, 博物館事務長, 博物館事務室4名</td> <td>週1回の定例会議の場において適宜点検・評価を行っている。</td> </tr> <tr> <td>博物館協議会</td> <td>教員10名, 事務管理職3名</td> <td>2014年6月18日, 2015年3月23日</td> </tr> <tr> <td>博物館友の会</td> <td>一般の博物館利用者による任意団体 会長・副会長・理事による理事会は7名で構成</td> <td>2014年5月16日, 9月19日, 11月21日, 2015年2月20日, 5月15日 (以上, 友の会理事会との連絡会議)</td> </tr> </tbody> </table> ②評価報告書等の作成, 公表 2014年度明治大学自己点検・評価報告書に掲載し公表する予定である。	委員会等の名称	主なメンバー, 人数	開催日	図書館自己点検・評価委員会	委員: 副館長, 図書委員2名, 図書館事務長3名 事務局: 図書館総務事務長, 図書館総務事務室	メールによるオンラインミーティングにて点検・評価を行っている。	博物館自己点検・評価委員会	館長, 副館長, 博物館事務長, 博物館事務室4名	週1回の定例会議の場において適宜点検・評価を行っている。	博物館協議会	教員10名, 事務管理職3名	2014年6月18日, 2015年3月23日	博物館友の会	一般の博物館利用者による任意団体 会長・副会長・理事による理事会は7名で構成	2014年5月16日, 9月19日, 11月21日, 2015年2月20日, 5月15日 (以上, 友の会理事会との連絡会議)					10-33-1 2014年度図書館各種委員会委員構成
委員会等の名称	主なメンバー, 人数	開催日																			
図書館自己点検・評価委員会	委員: 副館長, 図書委員2名, 図書館事務長3名 事務局: 図書館総務事務長, 図書館総務事務室	メールによるオンラインミーティングにて点検・評価を行っている。																			
博物館自己点検・評価委員会	館長, 副館長, 博物館事務長, 博物館事務室4名	週1回の定例会議の場において適宜点検・評価を行っている。																			
博物館協議会	教員10名, 事務管理職3名	2014年6月18日, 2015年3月23日																			
博物館友の会	一般の博物館利用者による任意団体 会長・副会長・理事による理事会は7名で構成	2014年5月16日, 9月19日, 11月21日, 2015年2月20日, 5月15日 (以上, 友の会理事会との連絡会議)																			
<b>(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか</b>																					
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	図書委員会の下におかれた「図書館自己点検・評価委員会」において点検・評価した内容をもとに、翌年度の年度計画立案の参考としている。年度計画は図書委員会承認により実施している【10-33-1】。 ●文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項への対応 図書館独自で解決, 対応可能な事項については, 図書館長の総括, 各図書館事務長の指揮監督の下に直ちに改善策を検討している。さらに, 必要に応じ, 図書館事務長会を開催し, 重要事項の審議を行なっている【10-33-2】。また, 問題の内容によっては学長, 担当理事, 理事会の決済を求め改善している。図書館運営に関わる重要事項については図書委員会に諮問し, 審議結果に基づき改善を図っている【10-33-3】。さらに, 問題点を洗い出し, 本学の長期・中期計画及び単年度計画の事項として取り上げ, 対応・改善方策の方向性を明確にし, 長期にわたり継続して改善にあたっている【10-33-4】。					10 10-33-1 2015年度図書館各種委員会委員構成 10-33-2 事務部長・図書館事務長会議事録 2014年度第1～9回 10-33-3 図書委員会議事録 2014年度第1～4回 10-33-4 2014年度教育・研究に関する年度計画書															

# 2014年度図書館・マンガ図書館 自己点検・評価報告書

## 第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p><b>(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか</b></p>							
<p>a ●PDCAサイクルを回すための、Check(点検・評価)およびAction(改善)の具体的内容・工夫</p> <p>&lt;参考:以下の事項に関して、関連するものについて記述する&gt;</p> <p>①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など</p>	<p>①組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 「図書館自己点検・評価委員会」を設置し、恒常的に自己評価を行う体制を整えている【10-33-1】。毎年学長に提出する「教育・研究年度計画書」の内容に関する実施・実現状況の検証を行い、翌年度に「自己点検・評価報告書」を作成している。また毎年「図書館年次報告書」を刊行し、前年度の諸活動を総括するとともに、図書館活動の自己点検・評価、企画・立案のために、これを活用している【10-33-5】。</p> <p>③学外者の意見の反映 「年次報告書」「図書の譜：図書館紀要」等の刊行物を学内及び学外諸機関に配布している。また、図書館ホームページを通じて情報を発信している【10-33-7】。これらの広報媒体を通して、図書館の活動を公開し、活動成果を社会へ発信している。これに対する反響は、図書館活動を推進する原動力のひとつとなっている【10-33-5, 10-33-6】。</p>		<p>図書館として、学外の第三者による検証を受ける仕組みはまだ整備されていない。現在の「図書館自己点検・評価委員会」のような組織内部構成員による評価では、自己点検・評価の客観性・妥当性を十分に確保できるとは言えない。</p>		<p>図書館業務、サービスを組織的、恒常的に改善する機能をもつ図書館自己点検・評価委員会の活動および「図書館年次報告書」の刊行を今後も維持する。また第三者評価の導入の検討をする委員会を立ち上げる。</p>	<p>教員及び学外者による委員会等を組織し、学内外の専門的知見を評価に生かす体制を作る。</p>	<p>10-33-1 2014年度図書館各種委員会委員構成 10-33-5 2014年度図書館年次報告書(2015年6月末刊行予定) 10-33-6 「図書の譜：図書館紀要」第19号(2015年3月) 10-33-7 図書館ホームページ「図書館年次報告書」 <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/about/publication/annual/index.html">http://www.lib.meiji.ac.jp/about/publication/annual/index.html</a></p>

## 第10章

委員会等の名称	主なメンバー、人数	開催日
図書館自己点検・評価委員会	委員：副館長，図書委員2名，図書館事務長3 事務局：図書館総務事務長，図書館総務事務	メールによるオンラインミーティングにて点検・評価を行っている。
博物館自己点検・評価委員会	館長，副館長，博物館事務長，博物館事務室4名	週1回の定例会議の場において適宜点検・評価を行っている。
博物館協議会	教員10名，事務管理職3名	2014年6月18日，2015年3月23日
博物館友の会	一般の博物館利用者による任意団体 会長・副会長・理事による理事会は7名で構成	2014年5月16日，9月19日，11月21日，2015年2月20日，5月15日（以上，友の会理事会との連絡会議）